

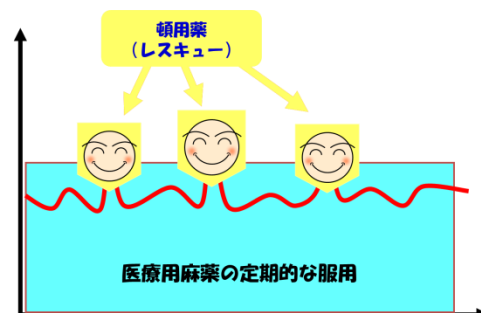
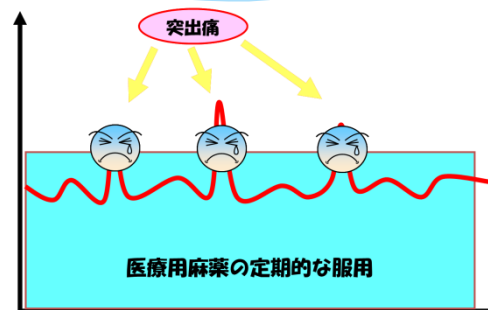
緩和ケアだより

平成25年度 第2号

レスキューを上手に使用しましょう！

レスキューの使用時の注意点

- 内服の場合1回量は1日量の約1/6を目安に、持続注の場合1～2時間量をフラッシュ。効果がうすいようであればレスキューの増量も可能。
- **必ず速放性製剤を使用する。** 突出痛に対して定期薬の徐放性製剤を服用しても、効きはじめるまで時間がかかるので意味がありません。
- 基本は定期薬と同一経路、同一成分。フェンタニル貼付剤の場合はモルヒネやオキシコドンのレスキュー製剤を使用。
- 内服の場合1時間（持続注の場合15分）あければ1日何度でも反復可。レスキューは内服後30分～1時間後に効果が最大となるため、1時間後に効果判定を行います。
- 突出痛の出現が予測できる場合はレスキューの予防投与を。
- レスキューの使用が1日4回以上になるようであれば定期薬の増量を考慮。1日のレスキュー使用量の50～100%を定期薬に上乗せ、あるいは定期薬の30～50%量を増量。



なぜフェンタニルには内服薬（レスキュー製剤）がないの？

フェンタニルを内服し腸管から吸収された場合、門脈にのって最初に肝臓を通過する際にほぼすべてが活性のない代謝物に代謝されてしまいます。そのため、フェンタニルを内服しても効果が得られないのでフェンタニルの内服薬は存在しません。

しかし、フェンタニルのレスキュー製剤として口腔粘膜吸収剤のバックル錠が開発されており、近々臨床現場に登場します。これは、バックル部位（歯茎と頬の間）へ薬剤を投与し口腔粘膜から薬剤を吸収させることにより、門脈に入ることなく全身の血流にのり即効性の鎮痛効果を発揮します。

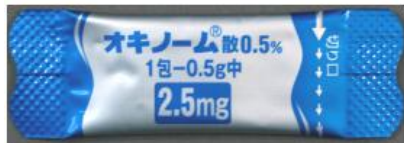
同じくフェンタニルのレスキュー製剤として舌下錠も近いうちに登場します。



バックル錠イメージ図

当院で使用可能なレスキュー製剤

オキノーム散
(2.5mg/包0.5g、5mg/包1g)



オプソ内服液
(10mg/包5mL)



モルヒネ塩酸塩末
(当院では10%散にして使用)



アンパック坐薬10mg

